

志教育の 視点	☑かかわる ・ ☑もとめる ・ ☑はたす
------------	----------------------

活動名	農業を介在した地域連携
教科・領域等	【農学系列】農業（草花・作物・生物活用・総合実習・農業と環境）
活動学年等	全年次
ねらい	農業の様々な栽培をとおして人とのかかわりを持ち、より良い生き方を求め、関わりの中で社会の役割を果たすことができるように、地域との連携を行っている。

【実践内容】

【活動内容】

- ① パンジー・ビオラ・ハボタンの花を農学系列で栽培し、館矢間小学校で児童と生徒が花壇へ花の植え方を一緒に行った。
- ② 丸森小学校の児童が伊具高校（農場）で生徒と収穫体験一緒に行った。
- ③ 角田支援学校の生徒と農学系列で栽培したパンジー、ビオラ、サルビア等を活用して花壇へ花の植え方を一緒に行った。また、伊具高校で栽培した枝豆を本校で生徒たちと収穫体験を行った。
- ④ 棚田農家さんとの交流
- ⑤ 角田市花壇コンクール

【成果と課題】

丸森町内の2つの小学校とともに花壇への草花の植え方や収穫体験を一緒に行った。高校生が先生役で小学生にそれぞれの知っていること、できることを教えた。高校生は教えるためにその技術や知識を習得しなければならない。小学生のために熱心に授業に取り組む姿勢が見られた。そのことから、普段の学習の成果を再確認させ、定着させることには効果がある。実際の行事では、小学生が少数の配置もあり、小学生との実習では和やかな雰囲気で行うことができた。はじめは緊張気味に実習を行っているが、高校生が積極的に話しかけると緊張が徐々にとれて、打ち解けていった。この成果から生徒たちは小学生に対して共に成長できる機会となっている。

また、生徒が地域に出て行き貢献することは、知識、技術をもっと得ようとする思いと、生徒自身の自己有用感にもつながっている。



①



②



③



④



⑤

志教育の 視点	☒ かかわる　・ ☒ もとめる　・ ☒ はたす
------------	---

活動名	「伊具高の力」プロジェクト
教科・領域等	【機械系列】実習 総合的な探究の時間
活動学年等	全年次
ねらい	高校生が地域社会のために何ができるか考え実践する。地域社会の課題を見出し、地域貢献事業、地域連携事業を通して、伊具高生としての存在意義、価値を見出し、自己肯定感、自己有用感の向上を図る。

【実践内容】

「高校生が地域社会のために何ができるか」を考え、各年次において既習内容を踏まえながら、地域社会の抱える課題や、ニーズを掘り出し、他者と協働して課題解決に取り組む「伊具高のカプロジェクト」を機械系列では実施している。

- 1 地域貢献活動（ゴミ集積所の製作と寄贈）
- 3年次が、地域の要望に合わせたゴミ集積所の製作を行った。実地踏査を行い、地域の方々の要望を聞きながら地域企業の方々とその地域に適したゴミ集積所を設計、製作し寄贈した。
- 2 地域貢献活動（ふるさと納税の返礼品の出品）
- ふるさと納税の返礼品として登録するために、地元企業の方々と商品化するための話し合いを重ねた。本年度は組み立て式七輪の製作を行った。
- 3 地域連携活動（中学校への出前授業）
- 中学校でのプログラミング体験として、ドローンを用いたプログラミング授業を実施した。

【成果と課題】

地域社会の求めるニーズや課題に他者と協働で取り組む活動を通して「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を身につけさせることができた。また、学校での学びを地域社会に還元することで、誰かの役に立ち、人に感謝されることの喜びを感じることができた。また、新聞等で活動の様子を紹介していただき生徒たちは達成感を味わうことができた。3年次においては、多くの生徒が郷土に関心を示し、地元企業に就職した。

今後も生徒が主体的に地域社会に関わることにより自己の役割を認識し、よりよい選択ができるようにしていきたい。また、社会の変化にも対応できる人材の育成を目指していきたい。



「開閉楽々 ごみ出し気楽に」 宮城・伊具高生が鉄製集積所作り、寄贈 住民感謝「大切に使う」

2024年12月24日 5:00 (月)

社会 宮城

丸森町の伊具高の生徒たちが、角田市後沖地区に大型のごみ集積所を寄贈した。

機械系列の生徒たちが開発した集積所は、幅2・4メートル、奥行き1・2メートル、高さ1・4メートルの鉄製。堅固な作りながら、高齢者でも簡単に開閉できるように、扉はローラーでスライドするように工夫した。地区住民14世帯が利用を予定する。

現地で12日に引き渡し式があった。区長の尾山耕三（77）は「古い集積所は網の穴から小動物が入ってしまうなど課題があった。大きくて立派で使いやすいと思うので、大切に使用していきたい」と話した。

3年次生が「（17）は「地域の方々や高齢の方々に気軽に使ってもらいたい」と思い、気持ちを込めて作った」と話した。

機械系列の生徒によるごみ集積所の製作・寄贈は今回が3例目。栗田町の機械加工会社「ヒキチ」が設計などで助言した。

河北新報 ONLINE

社会 宮城

宮城・伊具高生がごみ集積所寄贈 栗田町内に1基「感謝される学び、幸せ」

2024年2月18日 5:00 (日)

社会 宮城

伊具高（丸森町）の生徒たちが、授業で製作した大型のごみ集積所1基を栗田町四日市場地区に寄贈した。

機械系列の3年生が授業や習熟を約5カ月かけて製作した集積所は、幅1・8メートル、奥行き0・6メートル、高さ1・2メートルの鉄製の箱型。ごみ回収車の利便性を考慮し、正面は7段でなく扉を開く必要のない構造にした。地区住民25世帯が使う。

生徒は開け閉めするタイプの集積所だったが、簡単に開く、カラスに食い散らかされる被害も多かった。住民が町内会の伊具高職員に相談したことで実現した。

生徒らによる寄贈は7日であり、大久保一広（72）は「立派な物をいただきありがたい。みんなで大切に使っていきたい」と喜んだ。

卒業後多岐な3年生は卒業後、2年生3人が卒業後就職先がわかる環境を知ると引き渡し後を見て出た。栗田町職員（あおと）さん（17）は「人に感謝される学びができるのはとても幸せなこと」と話した。

志教育の 視点	☑かわる ・ ☑もとめる ・ ☑はたす
活動名	まるもり活性化プロジェクト
教科・領域等	【情報系列】総合的な探究の時間・総合実践
活動学年等	3年次・2年次
ねらい	3年次：地域産業について探究し、今後の課題等について考察する。そして地域の企業等と連携して、地産地消を目指し、地元の方に喜んでもらえる商品開発を目指す。 2年次：地域活性化のために地域の特産品製作について取材し、学習の成果を生かし、販売用パッケージを作成することで地域に貢献する。

【実践内容】

(1) 地域産業についての探究

地域の産業を支える方々を訪問し、活動内容を見学させて頂くことで見聞を広め、私たちに何が出来るかを考察した。まず、養蚕業について探究の第一歩として、丸森ふるさと館に出向き、丸森町教育委員会の方から養蚕がどのように栄えていったのか、詳しく聞くことが出来た。その後丸森町の佐藤ファームに伺い、養蚕の現場を見学させて頂いた。かつては全国で220万戸程あった養蚕農家も今では300戸程に減少しており、生徒達は養蚕業の歴史や現状を学ぶことが出来た。

次に養蜂業について学ぶため、石塚養蜂園に伺った。ハチミツには薬用としての価値が高いことを学び、採蜜体験もさせて頂いた。今回の体験で得たハチミツの効能を幅広く知ってもらうため、丸森のハチミツを使用した商品開発・販売を校内で実施した。

(2) 3年次 商品開発・販売活動

本年度は丸森の特徴を生かし、地産地消を目標とした商品開発にグループごとに取り組んだ。商品コンセプトを地元の企業にプレゼンし、試作会にも参加してもらい、アドバイスを頂いた。その後メニューの改善を重ね、校内外のPR活動と当日の販売シミュレーション、アンケート作成を実施した。スムーズな商品の受け渡しを考え、今年度は事前の食券販売も実施した。文化祭当日は多くの来場者と本校生徒に販売することができた。

(3) 2年次 地域特産品パッケージラベル作成

地域の農園直売所が販売する漬け物について、授業の学びを生かしてパッケージラベル作成に取り組んだ。始めに本校福祉系列が地元の製作者の方々から漬物の作り方を学ぶ様子取材して完成品を観察するなど、パッケージデザインの情報収集を行った。生徒達は想像力、パソコンスキルなどを用いてそれぞれがイメージするパッケージを作成し、完成したラベルを製作者の方々に渡すことが出来た。

【成果と課題】

(1) については販売に当たって、授業の学びを生かしてチラシ・ラベル・POPなどを作成し、丸森産のハチミツの効能を宣伝することができた。

(2) についてはアンケート集計から味・価格などの満足度が高いことがうかがえ、また宣伝効果も高かったことが分かった。売上を計算し、商品の販売に掛かる諸経費などから原価計算を行ったことで、ビジネス計算や簿記の学びを生かすことが出来た。次回は利益を得るにはどのような方法が必要か、考えさせる時間を持ちたい。

(3) については、生徒は商品からイメージを膨らませ、より魅力的で親しみやすいパッケージ製作に真剣に取り組むことが出来た。作成に用いたソフトウェアも全員同じではなく、自分の得意な領域を生かす力が確認できた。次年度はラベル印刷などのスキルなどについて学ぶ機会を持ちたい。



志教育の 視点	☑かかわる ・ ☑もとめる ・ ☑はたす
------------	----------------------

活動名	私たちの防災活動
教科・領域等	【福祉系列】総合的な探究の時間
活動学年等	2・3年次
ねらい	令和元年東日本台風の被害の教訓を一人一人が自分事として考える。また、地域のために高校生としてできることは何かを考え実践することを通して、地域社会に主体的に参画する態度を育てる。

【実践内容】

【活動内容】

丸森町では令和元年10月12日に台風19号が襲来し、町民の尊い命を奪うとともに、私たちのふるさと丸森史上最悪となる甚大な被害をもたらした。現在は復興工事が進み元の姿に戻ってきているが、高齢化が進んでいる丸森町では復興が困難な家庭もたくさんあった。この台風被害を経験したことから、福祉系列では自分たちにできることは何かを考え、継続して活動している。

活動① 段ボールベッド・防災テントの設営説明と体験会の実施

3年次福祉系列の生徒が主体となり、5月の防災訓練の際に段ボールベッドと防災テント設営説明を行った。また、家庭クラブ活動では設営体験会を行い、30名の生徒が参加した。実際に触ってもらうことで、段ボールベッドの強度や組み立てのポイントなどを在校生へ伝えることができ、生徒の防災意識を高めることに繋がった。

活動② 防災食研究

丸森町保健福祉課から防災食を頂き、実際に調理した。ハヤシライスとドライカレーの2つを調理し、その様子を撮影し、全校生徒に作り方を伝えられるように動画を作成した。水やガスは必要不可欠であることを体感したが、行政の助けだけでは食べるものが足りないの、自分たちで備えることが重要であると感じた。

活動③ 仙台赤門短期大学の出前授業

仙台赤門短期大学から講師をお招きし、災害時に自分たちにできることについての講話を行っていただいた。丸森町の災害の特徴を知り、高齢者に対してできる支援について考え、災害時に役立つ高齢者支援技術について学んだ。丸森町は高齢化も進んでいることから、若者の力がとても重要であることを改めて理解することができた。

活動④ 近隣小学校・幼稚園との防災活動の実施

近隣の小学校で防災教室を実施した。令和4年度卒業生が作成した防災紙芝居「い・ま・こ・そ」の読み聞かせと、防災テント、段ボールベッドの設営を行った。避難所では様々な人と一緒に過ごさなければいけないことから、思いやりを持って行動することが大切だと伝えた。

近隣幼稚園では、紙芝居の読み聞かせに加えて、防災について学べるゲーム「防災ダック」を行った。防災ダックは安心・安全の「最初の第一歩（ファーストムーブ）」を子どもたちが実際に体を動かし、声を出して遊びながら学べるゲームである。地震、津波、火事、雷の際に、どのように行動したら良いかを子どもたちに伝えることができた。



【成果と課題】

様々な年齢の方と関わり、多方面から防災について向き合う活動を考えることができた。災害時に「共助」の力を発揮するために、日頃から地域と関わっておくことが重要だと生徒達は改めて気づくことができた。今後は防災に関して、一人一人が自分事として考えていけるよう、継続した活動内容を地域と連携して考えていきたい。